



なんで避妊・去勢手術をするの??

皆さんのワンちゃん、ネコちゃん、ウサギちゃんは避妊・去勢手術はお済ですか?健康な子に手術なんてかわいそう…と思われる飼い主さんもいらっしゃるでしょうが、とくに繁殖を望まないのであれば、避妊・去勢手術は早めに行うことをおすすめします。

この手術は望まない妊娠を防ぐというだけではなく、素晴らしい効果があります。

①病気の予防

男の子：前立腺疾患、精巣腫瘍、会陰ヘルニア

女の子：子宮蓄膿症、乳腺腫瘍、卵巣腫瘍

避妊・去勢手術は、上記の病気の予防に役立ちます。病気になって、具合が悪くなってからの手術はリスクが高くなりますし、気付いたときには手遅れという可能性もありますし、治療費も高額になります。

<当院の患者症例>

当院でも高齢の犬で前立腺腫瘍や癌、猫で乳腺癌の患者がよく来院されています。共に余命は短いのです。前立腺の疾患は疼痛が強く、一般状態の低下が激しいので、すぐに手術するのは困難であり、内科治療には限界があります。毎日痛みを訴える犬を見るのは飼い主さんもスタッフも辛い気持ちになります。猫の乳腺癌は悪性が多く、肺転移があれば手術もできません。再発の可能性もあり、大きくなれば自壊（腫瘍が中からはじけること）することもあります。そうすると毎日消毒して感染に気をつけなければなりません。猫自身も痛くて気にしますし、臭いもあります。

病気になって一番辛いのは動物自身ですが、飼い主さんも通院、自宅での看護、経済的な負担、なにより辛そうな動物を見ている精神的ストレスが大変なものになります。そうならないようにしてあげることが人にも動物にも大きな価値があります。



←手洗い：手術前にはよく手を洗い、術者の手指の殺菌をします。手洗いの際には、直接手で触らなくても、消毒剤は肘で押すポンプ、水はセンサーで出てきます。せっかく洗ったきれいな手で汚いところを触らなくてもいいようになっています。

②発情ストレスからの開放

オスのマーキング、スプレー、メスの発情出血や鳴き声、逃亡は、若齢時の避妊・去勢手術で解消される可能性が高いです。こういった行動は臭気や騒音というかたちで人間の生活にも関わってきます。避妊・去勢手術は、人間と動物がより良い関係を築くひとつの手段といえます。

③攻撃性の低下

若齢時に手術することにより、子供のときの性格を維持でき、とくにオスではケンカが減るなど、攻撃性の低下が期待できます。

また、避妊・去勢した方が高齢期に病気になる可能性が低くなり、長生きにつながるでしょう。

④手術の心配点

若くて元気なかわいい盛りに手術する飼い主さんたちの心配は、私たちスタッフも飼い主の1人です。ので、本当によく理解できます。当院では避妊・去勢手術でもきちんと血液検査、レントゲン検査を行い、出来る限り安全に手術を行えるようにしています。麻酔や手術のリスクを完全に無くすことはできません。しかし、リスクを下げていくことはできます。検査の時点で異常があれば、無理に手術することはしません。治療についての相談をさせていただいてから、手術については再考をお願いしています。

検査内容はコース毎に分かれており、飼い主さんたちが獣医師と十分に相談して選べるようになっています。手術の時期や流れ、手術後の注意点なども病院スタッフにいつでもお尋ねください。



↑犬の避妊手術：術者、助手、麻酔係の3人で入ります。術者が主体となって手術をすすめ、助手は術者がやりやすいように器具の出し入れをしたり、術野が見やすいように補助します。この2人が手術に専念できるよう、麻酔係は動物のSpO2（酸素濃度）、血圧、呼吸、心拍、麻酔のかかり具合などをモニターと可視下で見えています。